

平成29年度の教育活動等に対する学校評価書

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制
------	----	---------	----	-----

A:よくできた	B:だいたいできた
C:不十分だった	D:ほとんどできなかった

今年度の重点目標（学校経営目標）		具体的取り組み計画	自己評価	成果と課題 自己評価	関係者評価
ア	通信制高校が直面している様々な課題を克服する為に、総合的な教育力のより一層の充実を図っていく。	①基礎的な学力の定着や自主学習習慣の定着を図る取組の継続。 ②学校内外での生活指導を強化し、モラル・規範意識・社会常識を教える。 ③発達障害を持つ生徒や、独力では学習に困難を抱える生徒への個別指導。 ④大学進学希望者の学力向上の取り組み強化。 ⑤社会適応能力の養成やビジネスマナー指導などによる就職支援の強化。	B	基本重視の観点から、特に学校設定科目の充実により、基礎学力の定着を図ることができたが、自主学習習慣の定着には至っていない。生活指導の強化がなされ、前期より問題行動は減少してきたが、喫煙は依然として根絶できていない。規範意識をさらに高める必要がある。静岡会場では、特に発達支援教育に重点を置いて取り組んでいるが、教員数の増加を含め、さらに内容の充実を図らねばならない。大学進学に関しては、外部機関の協力体制を密にしなければならない。就職支援の強化は、面接練習・履歴書作成等、個別対応の充実が図られ、校舎によっては早期の進路決定がなされるようになってきた。	B
イ	生徒1人ひとりの個性を伸ばす、きめ細やかな対応を続けていく為に必要な教職員を増員し配置する。	①多様な生徒（不登校・問題行動・発達障害等）に、学習への動機づけや学びへの意欲を喚起できる教員の養成を継続する。 ②個別指導、部活動、キャリア教育、インターンシップなどに十分対応できる教員数を確保する。 ③教職員の組織化を推進し、より機能的な集団にする。その為に内部研修を充実し、外部研修を積極的に活用することにより、各教職員の指導力や対応力を向上させる。 ④未履修や休学中の生徒やその保護者へのアプローチを積極的に行い、履修や復学を促す。	C	多様な生徒への取り組みとして、個別対応による単位修得のサポートがなされるようになってきたが、校舎により差がある。それ以外の活動に関しても同様であり、その原因は、昨年度より生徒数は大きく増加し、同時に個々の生徒の多様性に伴い、職員数は増加したにもかかわらず、十分な対応が取れない会場もあったと考えられる。また、教職員の指導力・対応力向上のための内部研修の不備、外部研修も初任者研修一部の教員だけに留まった。もっと研修に時間を取れる体制作りが必要である。未履修・休学中の生徒への取り組みは、家庭訪問・電話連絡を継続的に実施することができ、取り組みデータを共有することによって共通理解を得ることができた。ただ、履修・復学を達成した生徒の数は限られており、今後も積極的にアプローチしていかなければならない。	B
ウ	技能教育施設との連携推進を推進する。	①通学スタイルのコース制を充実させ、より実践的な内容を目指す。 ②スクーリング会場の教職員を増員する。 ③スクーリング会場の第2校舎の増設（増床）を図る。	B	コース授業は3年目となり、コースによってはその時々目標を定めて、様々なバリエーションで取り組めた。ただ、現状の取り組みは、個々の教員の力量により、そのところが大きいため、今後は共通の年間指導計画や予算の割り当てが必要である。静岡会場・沼津会場の増床計画は具体化することができた。沼津会場は3階・4階の2フロアとなり、生徒はもちろん保護者からも好評である。ただ、増床すれば、目が行き届かなくなることも事実でありやはり、教職員の増員をさらに進める必要がある。	B
エ	吉田本校の充実。	週3日の平日スクーリング（ウィークリースタイル）を継続して実施し、部活動、キャリアデザイン、インターンシップ、ボランティア等様々な活動を通じ、高校生活の充実を図る。	B	週3日の平日スクーリングは継続して実施でき、その特性を生かして月曜・金曜講習を実施したが希望者は少なかった。部活動は、野球部・バスケットボール部・バドミントン部などの運動部、軽音楽部・合唱部・美術部などの文化部が主となっていたが、部員の拡大という裾野を広げるまでには至っていない。総合学習ではキャリアデザイン構築の一環として外部講師を積極的に活用し充実を図った。ボランティア活動も春・秋2回、吉田特別支援学校のイベントに参加したが、さらに多くの機会を地域との連携によって増やしていきたい。	B
オ	技能連携での発達支援教育モデルの構築継続。	特別支援教育の学校・学級や放課後デイサービス等の発達支援施設との交流・連携を促進し、発達支援モデルの構築を継続していく。	C	浜松・沼津会場では特別支援教育機関との連携を図ることが難しかったが、キャリアアリストコースを先行してきた静岡会場では、自己理解、基礎学力の定着、ライフスキル・コミュニケーションスキルの向上、社会資源活用を柱とした取り組みを行い、就労移行支援所との連携、作品作りなどを通して、生徒が楽しみながら成長できている。ただ、特別支援学校と比較して発達支援施設との交流が少ないため、今後も企業や施設の開拓、訪問を行い、交流の機会を増やす外交活動が必要である。	B
カ	I C T 教育および校務システム整備事業。	①インターネット授業配信システムの充実と添削指導デジタル化の準備。 ②校務支援システムの静岡県立高校仕様変更に伴う課題の克服。	B	インターネットによる映像授業配信システムは順調であるが、無制限に視聴が集中するとサーバーダウンするのは変わらない。どのように制限するかが今後の課題である。添削指導のデジタル化は準備段階であり、ネット配信可能地域の有無も含めて具体的には動きがない。校務支援システムは本校独自の仕様へ徐々にカスタマイズされ、スムーズに校務を行うことが可能となってきたが、さらに課題の克服が必要である。	A
キ	技能連携教育施設のコース制改編に伴う事前準備。	技能連携施設の全日スタイルコース制の改編に当たって、より魅力のある実学的な内容にするための事前準備を進める。	B	平成30年度、浜松・静岡・沼津の3会場に設定しているコース授業の改編を行うが、浜松会場新設予定のエンジョイスポートコースは、今年度試験的に週一回体育コースとして実施したため、運営方針や様々な改善案が具体化できた。静岡・沼津新設予定のアニメイラストコースは、早急な年間授業計画の立案を要する。	B